

鏡 開 き



そろそろ、松の内も終わり正月飾りを下げる時期です。この松の内、関東と関西では異なるそうです。関東では1月11日、関西では15日に行われることが多いようです。硬くなった鏡餅は包丁などを使わず、木槌などで叩いて

「開き」ます。年神様に捧げた鏡餅には神様の魂が宿ると言われ、神様と縁を切らないために、「割る」「切る」とは言わずに「開く」と、縁起良い言葉を使います。鏡餅が丸いのは、昔の鏡に由来します。日本の歴代天皇が継承してきた三種の神器の一つに鏡があります、その鏡は丸型、そのご神体としての鏡をお餅であらわし「鏡餅」と呼ばれるようになったようです。また、大小2段で月と太陽、陰と陽を表していて、円満に年を重ねるという意味もこめられているようです。

鏡開きが関東と関西とで違うのは、徳川家光が亡くなったのが4月20日で、それまでは、1月20日に行われていたのですが、1月20日を忌日として避けて1月11日に行う風習が、徳川幕府のあった関東を中心に広まったそうで1月11日は「111」とぞろ目で縁起が良いとされたこともあったようです。神様に供えた鏡餅を食べて、一年間無病息災を祈願します。

